

主 文

本件各上告を棄却する。

理 由

弁護人黒田純吉、同添田修子の上告趣意第一章ないし第五章は、違憲をいうが、実質はすべて単なる法令違反の主張にすぎず、同第六章は、火炎びんの使用等の処罰に関する法律が憲法一三条、一四条、一九条、二一条一項、三一条に違反する旨いうが、同法律の立法の実質的根拠が薄弱であるといえないことは、その規制の対象とする行為の危険性等に照らして明らかであり、同法が反政府運動鎮圧を目的とした差別的立法であるといえないことも、その法文自体によつて明らかであり、また、同法一条、二条の構成要件はあいまい不明確なものとはいえないから、所論は前提を欠き、同第七章は、事実誤認の主張であつて、いずれも刑訴法四〇五条の上告理由にあたらない。

よつて、同法四一四条、三八六条一項三号により、裁判官全員一致の意見で、主文のとおり決定する。

昭和五六年三月二三日

最高裁判所第二小法廷

裁判長裁判官	木	下	忠	良
裁判官	栗	本	一	夫
裁判官	塚	本	重	頼
裁判官	鹽	野	宜	慶
裁判官	宮	崎	梧	一